

解り合えないことを解り合う

かじた しんしょう
梶田 真章

- 1 エッセイ 世界へ●世界から
解り合えないことを解り合う
梶田 真章
- 2 みんぱくインタビュー
加藤 九祚名誉教授に聞く
人と人、人と物との間に橋を架ける
- 8 モノグラフ
ズルナを聴くしあわせ
寺田 吉孝
- 10 地球ミュージアム紀行
モンス二峠のピラミッド博物館
湖底に沈んだ歴史を語り継ぐ
菊澤 律子
- 11 表紙モノ語り
サルカンドの女性の部屋
加藤 九祚
- 12 みんぱくインフォメーション
- 14 万国津々浦々
リン・サオ みんなで育む恋のものがたり
岩佐 光広
- 15 時論 新論 理想論
収蔵資料情報の共有に向けて
ズニ博物館長の民博訪問
伊藤 敦規
- 16 多文化をささえる人びと
医療通訳サービスのある病院
りんくう総合医療センター 市立泉佐野病院
吉富 志津代
- 18 生きもの博物誌
ユーコン川の恵み〈マスノスケ〉
井上 敏昭
- 20 歳時世相篇
新たな祭りの創生競争
アフリカ、ザンビアにおける伝統の創造
吉田 憲司
- 22 フィールドで考える
身に覚えのない疑い
石田 慎一郎
- 24 みんぱくウィークエンドサロン
研究者と話そう
次号予告・編集後記

お 釈迦さまは「実にこの世において、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である」と説き、イエス・キリストは「汝の敵を愛せよ」と論じたが、人類は今日まで戦争を繰り返してきた。「解っちゃいるけど止められない」のが人間であるというしかない。自己を愛すること、家族を愛すること、国を愛することが人生の喜びの種であると同時に苦しみの原因でもある。愛は、いつ憎しみに変わるか解らない。愛は決して地球を救わず、愛国心が戦争の原因ともなっている。

「人間は自己中心的で煩惱とともに生きるを得ないので、自己の愚かさを深く自覚して愚か者同士としての仲間意識を焦らずに育ててゆくしかない。この世は特定の対象への愛に生きる世界で、たまに慈悲の心も生ずるが、常に慈悲の実践に生きることができるのは浄土に往生して成佛してからである」と八〇〇年前に日本発祥の普遍宗教である「専修念佛」を説いたのが法然と親鸞であった。

神道やユダヤ教などの民族宗教は他の民族との間では戦争の手段となってしまう。世界宗教であるキリスト教、イスラム教、佛教は戦争の手段となってはならないはずだが、聖書を携えながら戦争をするアメリカ合衆国大統領、国民を戦争に駆り立てた第二次世界大戦中の坊主など、宗教が果たすべき役割とは正反對の愚行は枚挙に暇がない。国益の為には戦争をするのが政治、如何なる時にも非戦を貫くのが世界宗教の役割のはずである。日本の坊主も情けないが、アメリカやロシアの神父さま、牧師さまには果たすべき役割を果たしていただきたいと思う。国際紛争、民族紛争の絶えない世界だが、人類共通の悲願は世界の恒久平和であると信じていたい。国際的な相互理解とは、各国、各人の事情と意識の違いを認め合うこと、「すぐに解り合える筈だ」ではなく、歴史と文化の違う国に育った者同士、「すぐには解り合えないことを解り合う」、「紛争の解決は暴力、武力によらず、言葉を尽くして対話する」ことが戦争の無い世界に繋がってゆくと思う。隣人でも解り合えないことが多いのだから、お釈迦さまの言葉を各国の為政者に伝えたい。「もしも愚者がみずから愚者であると考えれば、すなわち賢者である。愚者でありながら、しかもみずから賢者だと思ふ者こそ愚者だと言われる」合掌

1956年、京都市生まれ。1980年、大阪外国語大学ドイツ語科卒業。1984年、京都鹿ヶ谷法然院第31代貫主に就任、現在に至る。境内で環境学習活動を行なう他、表現者の発表の場やシンポジウムの会場としても寺を開放するなど、現代における寺と佛教者の可能性を追求している。京都市景観まちづくりセンター評議員、きょうとNPOセンター副理事長。著書に『ありのまま——いていねいに暮らす、楽に生きる。』（リトルモア）、『法然院』（淡交社 共著）など。